

令和8年度

全国学力・学習状況調査

能代市分析結果



能代市教育委員会

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象

小学校6年生、中学校3年生

(3) 調査の内容

① 教科に関する調査

- ・小学校調査：国語、算数
- ・中学校調査：国語、数学、英語（CBT）

② 質問紙調査

- ・児童生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

(4) 調査の方式

悉皆調査

(5) 調査期日

令和8年4月23日(木) ※中学校英語除く



(6) 調査を実施した学校・児童生徒数

	対象学校数	学校数（実施率）	実施児童生徒数
小学校	7校	7校（100%）	230人
中学校	6校	6校（100%）	257人

2. 教科に関する調査結果

< 概要について >

小・中学校とも概ね良好な状況です。

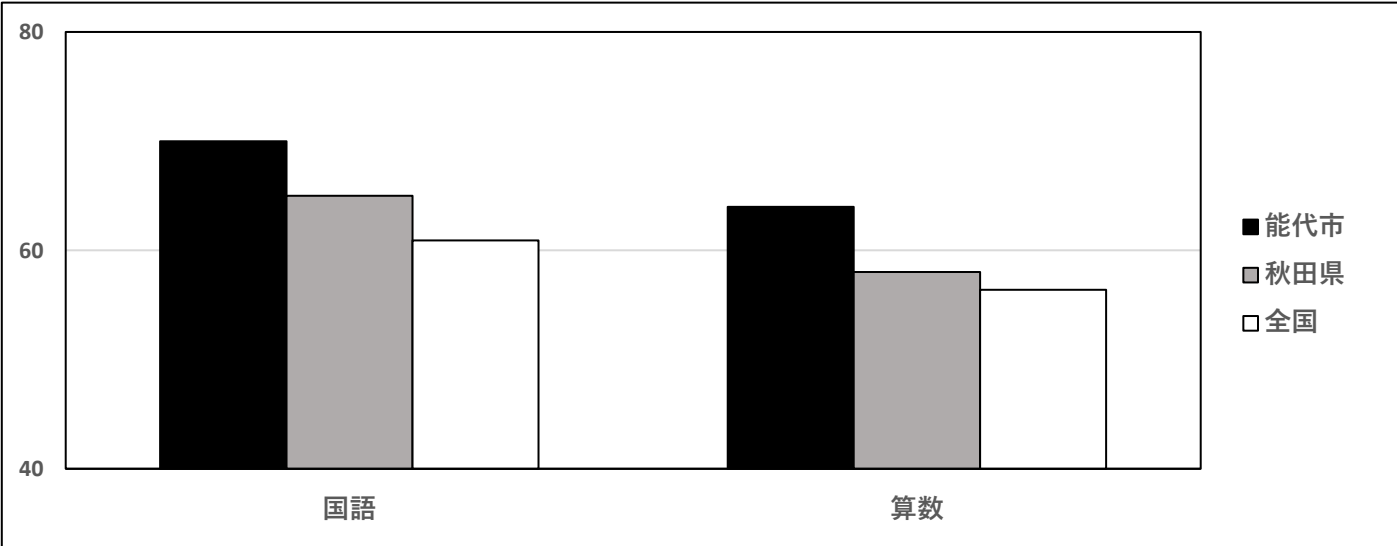
(1) 全国比較について

小・中学校ともに、国語、算数・数学で全国平均を上回っています。
中学校英語（読むこと、書くこと）で全国平均を若干下回っています。

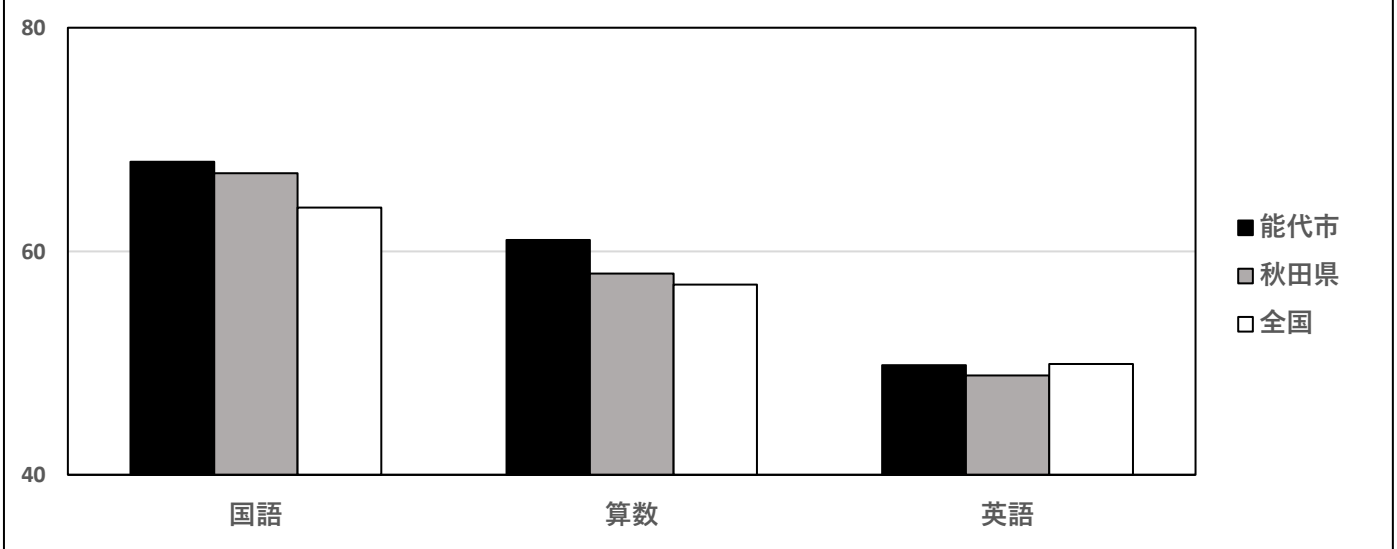
(2) 秋田県比較について

小・中学校ともに、国語、算数・数学、英語、全てで秋田県平均を上回っています。

(3) 小学校6年生平均正答率（％）



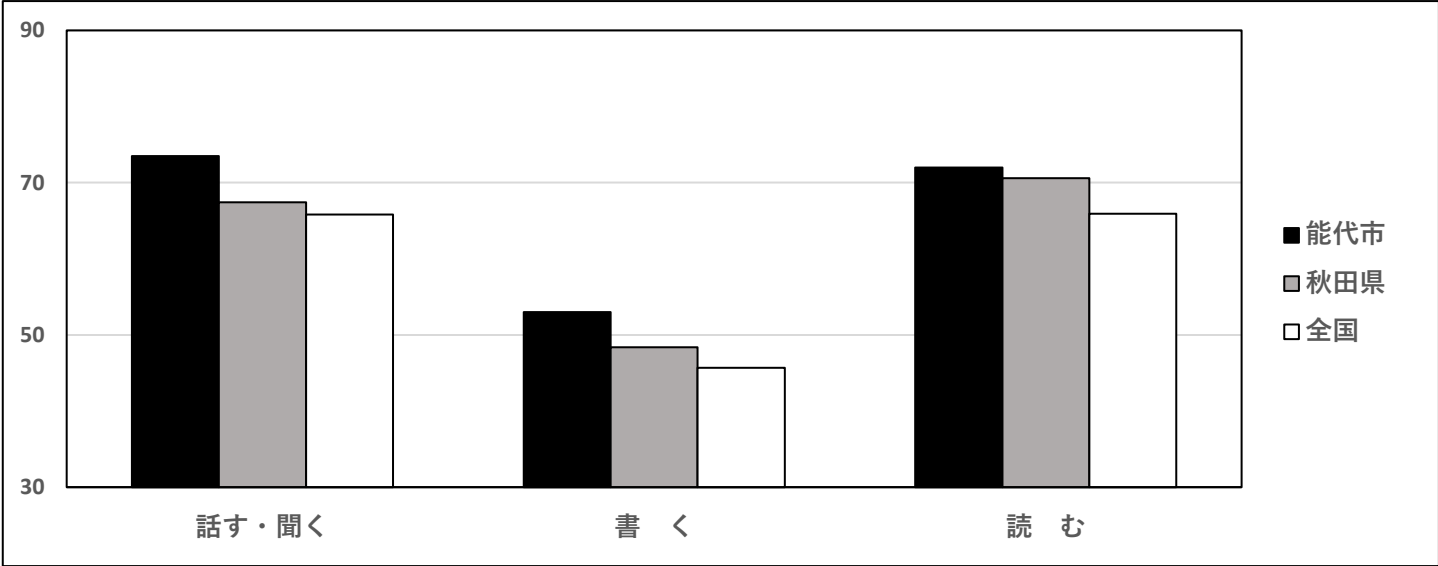
(4) 中学校3年生平均正答率（％）



※英語はIRT方式の調査のためIRTスコアを10分の1で示しています。

3. 教科に関する調査結果(小 国語)

< 小学校国語について >



(1) 領域別平均正答率の結果について

全ての領域で良好な状況です。

全ての領域で全国平均、秋田県平均を上回っています。

(2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全13問中、12問で全国及び秋田県平均を上回っています。



引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題で全国及び秋田県平均を大きく上回りました。【設問2四】

更なる向上を目指して

- 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考える問題 【設問2一】
- 目的に応じて、必要な情報を見付けることができるかどうかをみる問題 【設問3三(1)】

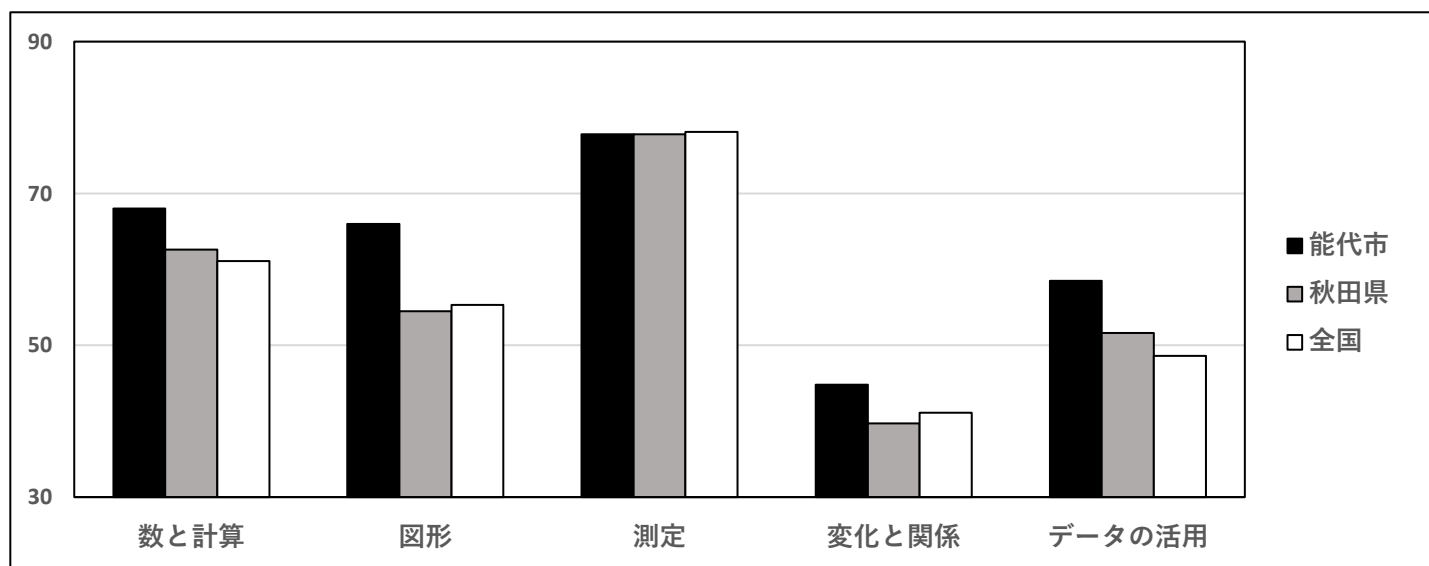


指導のポイント

- 筋道の通った文章にするには、文章全体の構成だけでなく、内容のつながりや配列を工夫することが大切です。本設問では、「疑問→調べて分かったこと→次の疑問」を繰り返し、読み手も一緒に考えながら読める文章になっているかがポイントです。指導では、複数の説明的文章を読み比べ、それぞれの論の進め方や効果を理解し、児童が目的や読み手に応じて文章を構成できるようにすることが重要です。
 - 目的に応じて必要な情報を見付けるには、文章から情報を取捨選択・整理・再構成することが大切です。本設問では、筆者の事例と林さん自身の経験を結び付けて考えることがポイントです。指導では、筆者の事例を自分の経験に置き換え、筆者のものの見方や感じ方に共感するか、異なる考えをもつかなど、自分の考えと関連付けて読むことが重要です。
- 【参考】令和8年度全国学力・学習状況調査報告書

3. 教科に関する調査結果(小 算数)

< 小学校算数について >



(1) 領域別平均正答率の結果について

多くの領域で良好な状況です。

測定の領域で秋田県平均と同程度ですが、全国平均を下回っています。

測定以外の四つの領域で全国平均、秋田県平均を上回っています。

(2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全16問中、13問が全国及び秋田県平均を上回っています。



体積の意味について理解しているかどうかをみる問題で全国及び秋田県平均を大きく上回りました。【設問1(3)】

更なる向上を目指して

- 単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二つの広場のどちらが混んでいるかについて判断できるかどうかをみる問題【設問2(3)】
- 示された情報を基に、数量の関係に着目して、条件に合う時間を求めることができるかどうかをみる問題【設問4(2)】

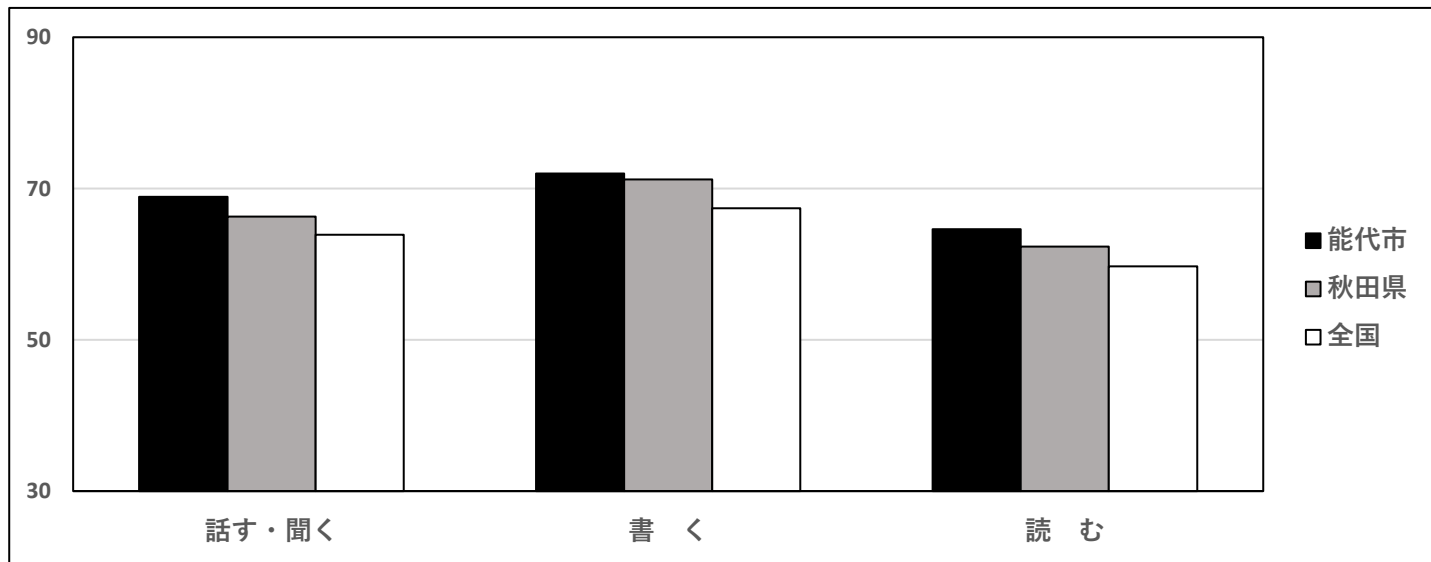
指導のポイント

- 二つの数量の関係に着目し、異なる単位の量の割合として捉えることが大切です。指導では、ウサギの数や広場の広さが異なる場合を比較し、一方の量をそろえる必要性に気付かせます。その上で、図や数直線を用いて単位量当たりの大きさを求める式の意味を理解し、その大きさを基に混み具合などを判断できるようにすることが重要です。
- 日常生活で時刻や時間を求めるには、示された情報を整理し、数量の関係に着目して筋道を立てて考えることが大切です。場面を図に表して数量の関係を捉え、「全体の時間」から準備・休けい・片付けの時間を引き、残った時間を前半と後半で二等分することで、必要な時間を求められるようにすることが重要です。

【参考】令和8年度全国学力・学習状況調査報告書

3. 教科に関する調査結果(中 国語)

< 中学校国語について >



※ 言語事項→伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

(1) 領域別平均正答率の結果について

全ての領域において概ね良好な状況です。

全ての領域で全国平均、秋田県平均を上回っています。

(2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全15問中、10問が全国及び秋田県平均を上回っています。



文章を読んで理解したことに基
づいて、自分の考えを確かなもの
にすることができるかどうかをみ
る問題で全国及び秋田県平均を大
きく上回りました。

【設問4四】

更なる向上を目指して

- 文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章中で使うことができるかどうかをみる問題 【設問3一】
- 表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだすことができるかどうかをみる問題 【設問3四】

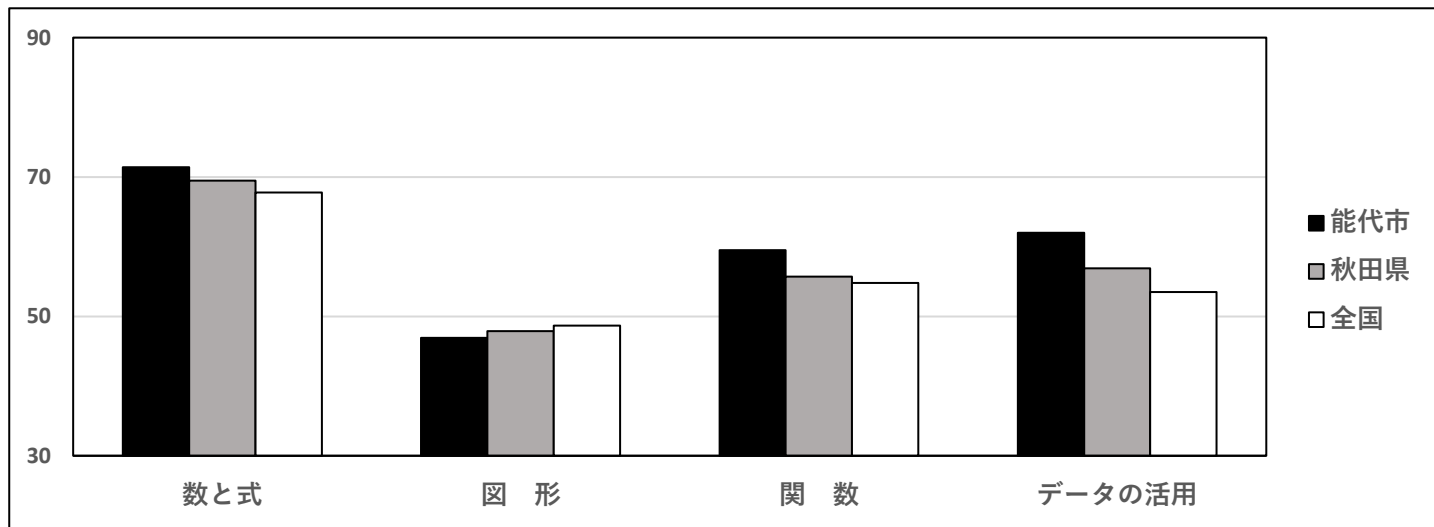
指導のポイント

- 漢字は、学年別漢字配当表の1,026字を中学校修了までに文や文章の中で使い慣れ、音訓や同音異義語の意味の違いに注意して正しく使うことが大切です。指導では、端末で文章を作成する際も漢字の意味に注意して適切に選ぶようにし、手書きを通して「へん」や「つくり」に注目し、字形や読み、意味への理解を深めることが重要です。
- 「共有」では、読み手の感想や助言を基に、自分の文章のよい点や改善点を見付け、次の書く活動に生かすことが大切です。「推敲」とは異なり、書き終えた文章を振り返ることがポイントです。第2学年では、表現の工夫とその効果に着目し、書き手の意図が読み手に伝わったか、効果的な表現は何かを伝え合い、次の活動に生かすことが重要です。

【参考】令和8年度全国学力・学習状況調査報告書

3. 教科に関する調査結果(中 数学)

< 中学校数学について >



(1) 領域別平均正答率の結果について

一部の領域（図形）で課題が見られます。

数と式、関数、データの活用の領域で全国及び秋田県平均を上回っています。

(2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全16問中、12問が全国及び秋田県平均を上回っています。



同類項の意味を理解しているかどうかをみる問題と、累積度数の意味を理解しているかどうかをみる問題で、全国及び秋田県平均を大きく上回りました。
【設問2、設問(1)】

更なる向上を目指して

- 2直線が平行になるための条件を理解しているかどうかをみる問題
【設問3】
- 筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる問題
【設問8(2)】



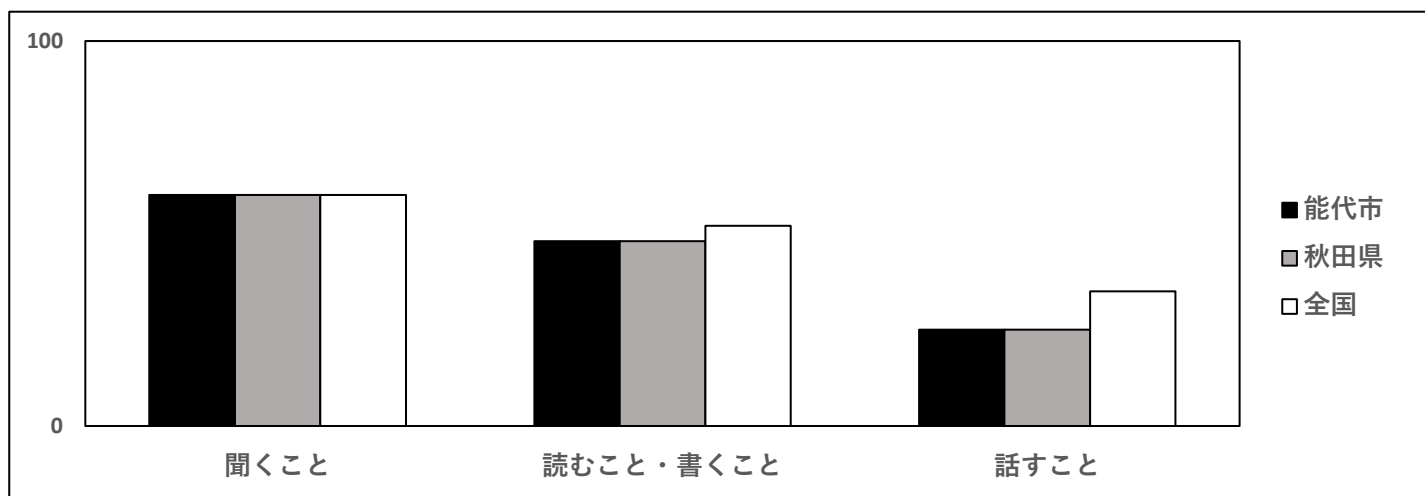
指導のポイント

- 2直線が平行になる条件を理解するために錯角に着目して平行かどうかを判断することが大切です。錯角が等しければ2直線は平行になることを理解させ、どの2直線に対する錯角かを正しく捉えられるようにします。また、平行線になる条件と平行四辺形になる条件を混同しないよう向かい合う角が一組等しいだけでは平行になるとは限らないことを考察させることが重要です。
- 事柄が成り立つことを証明するには、証明の方針を立て、仮定から結論を導く過程を筋道立てて表現することが大切です。仮定と結論を明確にし、必要に応じて三角形の合同等を利用して証明する見通しをもたせます。また、証明を書いた後は、根拠が明確か、論理の筋道や記号・用語が適切かを振り返り、評価・改善できるようにすることが重要です。

【参考】令和8年度全国学力・学習状況調査報告書

3. 教科に関する調査結果(中 英語)

< 中学校英語について >



※正答率を100%換算で示しています。

(1) 領域別平均正答率の結果について

特に話すことの領域で課題が見られます。

読むことと、話すことで全国平均正答率を下回っています。

(2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全23問中、13問が全国及び秋田県平均を上回っています。



日常的な話題について、短い文章を読み、概要を捉えることができるかどうかをみる問題と、日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ち等を整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる問題で、全国及び秋田県平均を大きく上回りました。

【設問9】 【設問12】

更なる向上を目指して

- ・日常的な話題について、自分の状況等から判断し、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる問題 【設問8】
- ・音声や語彙、表現、文法、言語の働き等の知識を、話すことによる実際のコミュニケーションで、活用する技能を身に付けているかどうかをみる問題

【設問15(1)】

指導のポイント

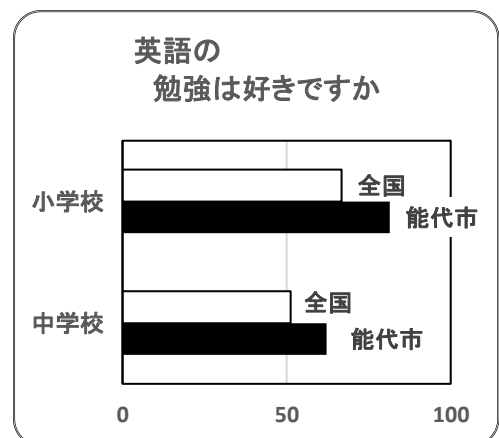
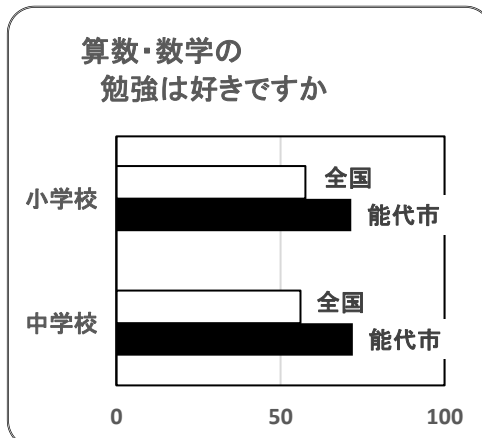
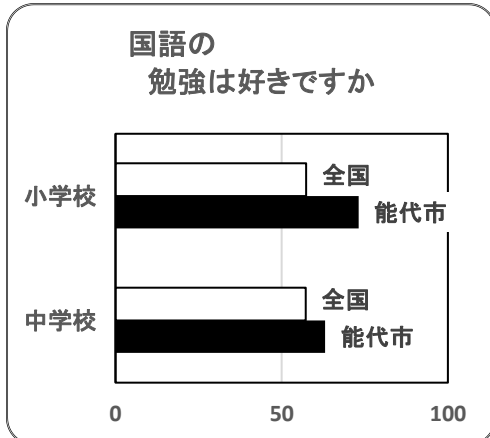
- ・必要な情報を読み取るには、自分の置かれた状況や読む目的を理解し、何を読み取るべきかを明確にすることが大切です。文章から必要な条件を把握し、それに関連する語句や表現に着目して、必要な情報とそうでない情報を整理しながら読む力を育てることが重要です。
- ・生徒が英語で即興のやり取りをできるように、教師自身が英語を積極的に使い、聞き返しや相づち、関連する質問等の方法を示すことが大切です。また、やり取りの後に内容や表現を学級全体で共有し、相手を変えて再度取り組むことで、伝える内容と表現の質を高めます。さらに、生徒が興味をもてるテーマで継続的に活動し、自分の考えを伝えるだけでなく、相手の発言に関連する質問をする力を育てることが重要です。

【参考】令和8年度全国学力・学習状況調査報告書

4. 質問紙調査結果①（授業づくり）

（1）国語、算数・数学、英語に対する関心・意欲・態度

各教科への関心や意欲が高い児童生徒の割合が全国平均と比べて高くなっています。

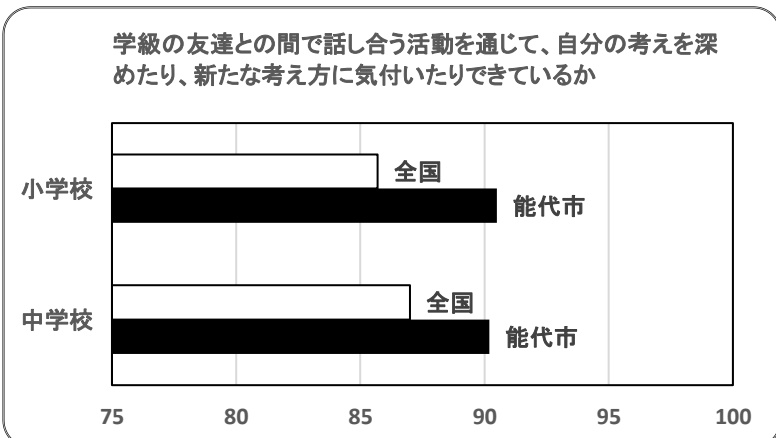
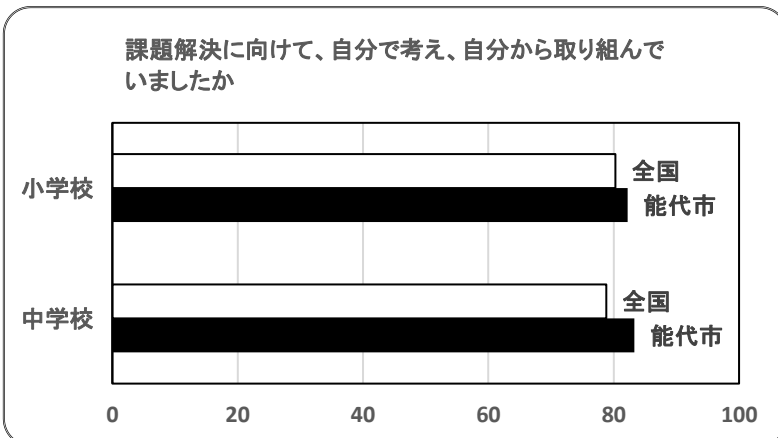


「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合（％）

小学校の国語、算数、英語、中学校の国語、数学、英語において、全国平均を上回っています。また、「授業の内容はよくわかりますか」についても、それぞれの教科で全国平均を上回っています。

（2）授業中での児童生徒の意識

- ・課題の解決に向けて、自分で考え、自ら取り組む児童生徒の割合が全国平均を上回っています。
- ・学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたり広げたりしている児童生徒の割合が全国平均より高くなっています。



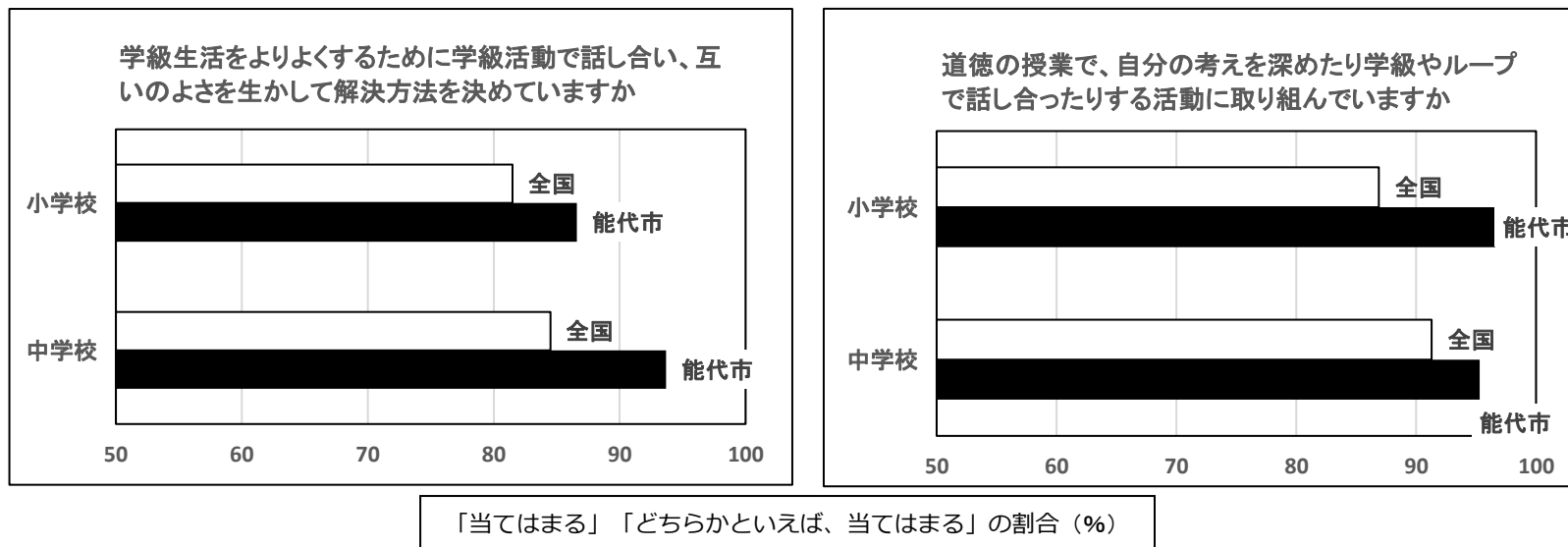
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合（％）

小・中学校ともに、全国平均を上回っています。友達との対話を通して、自分の考えを深めたり、広げたりする学習活動が大切にされていることがうかがえます。

4. 質問紙調査結果②（話し合い、ICT）

（1）話し合い活動

学級生活をよくするための話し合いや、考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる児童生徒の割合が全国平均に比べて高くなっています。

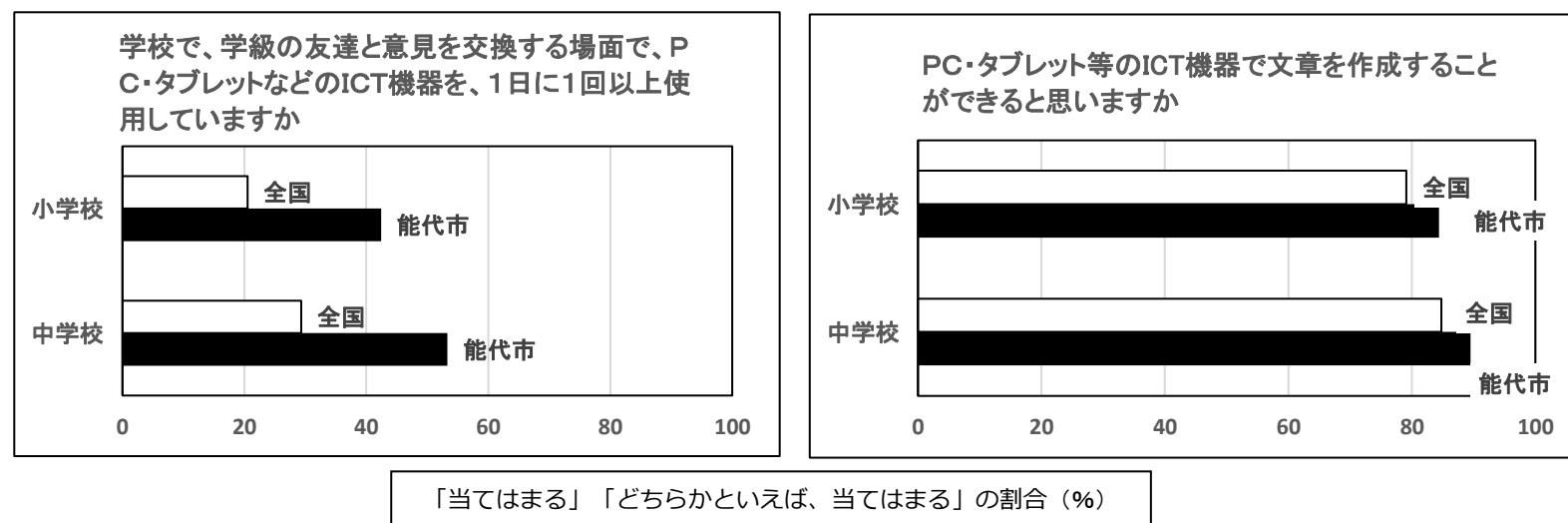


各教科の学習や学級活動、道徳等において、話し合い活動が充実していることがうかがえます。互いの考えを伝え合い、多様な意見に触れることは、自分の考えを広げたり、深めたりするとともに、よりよい解決方法を見いだす力の育成につながります。

（2）個別最適な学びのためのICTの活用

自分の考えを整理したり、友だちとの意見を交換したりする場面で、ICTが活用されています。

ICT機器を活用して、自分に合った方法で表現、共有することが深い学びにつながります。



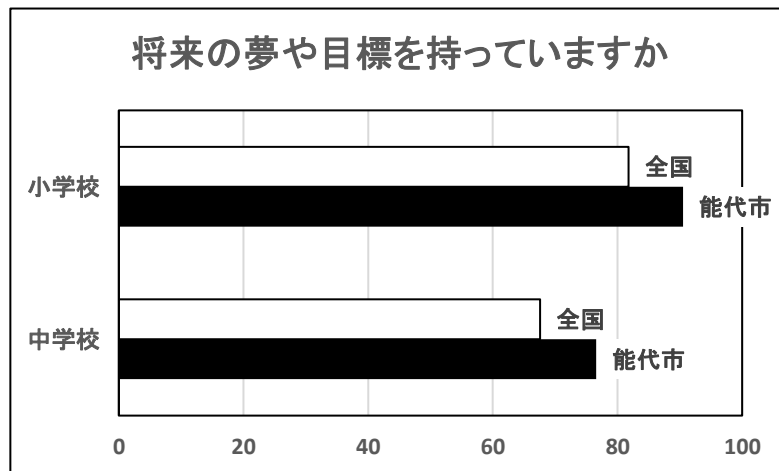
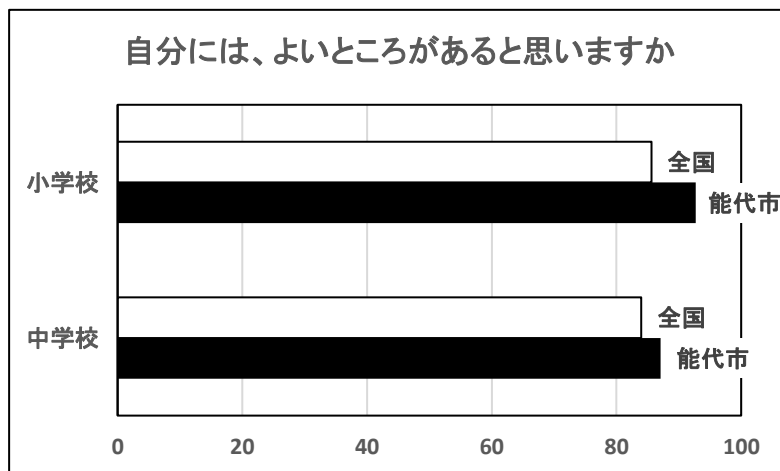
昨年度と比較するとICT機器の使用頻度は減っていますが、学習活動に応じて、効果的にICTを活用しようとする意識が高まったととらえることができます。ノート指導も大切しながら、これからもデジタルとアナログのベストミックスを意識していくことが大切です。

4. 質問紙調査結果③（ふるさと・キャリア教育）

（1）自己肯定感、キャリア形成

児童生徒の9割以上が、自分にはよいところがあると思っています。

将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合は全国平均より高くなっています。



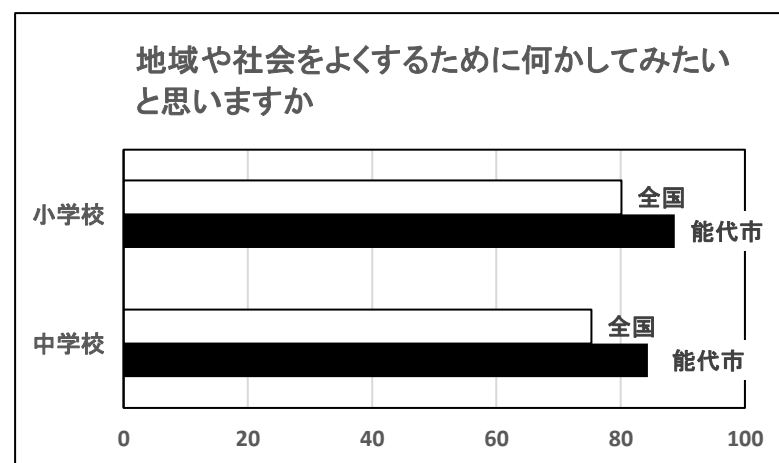
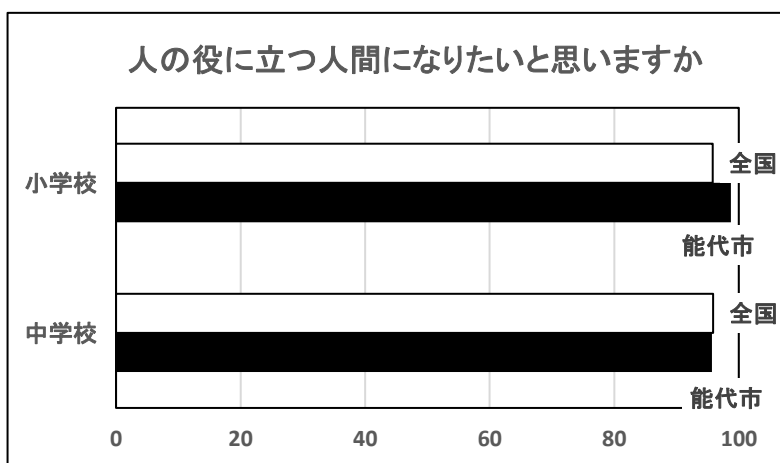
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合 (%)

児童生徒一人一人のよさや可能性を認め、自己肯定感を高めるとともに、将来の夢や目標をもち、その実現に向けて主体的に行動できるよう、キャリア教育の充実を図っていくことが大切です。

（2）地域・貢献意識

児童生徒のほとんどが、誰かの役に立ちたいと思っています。

地域をよくするために何かしてみたいと思っている児童生徒の割合が全国平均より高くなっています。



「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合 (%)

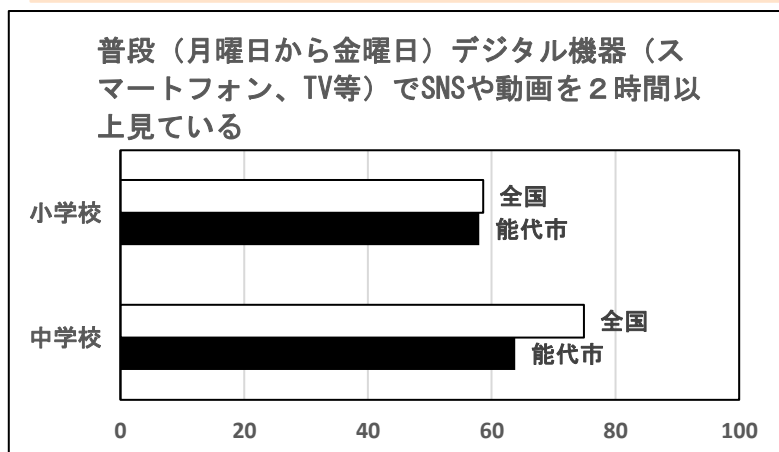
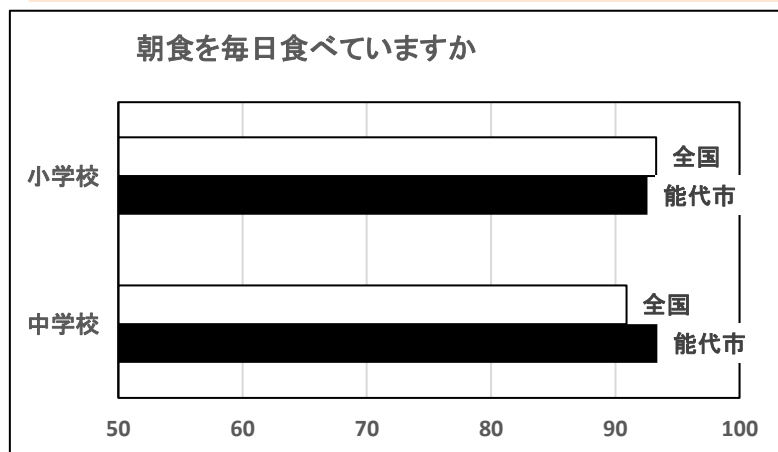
地域や社会の役に立ちたいという意識が高く、地域をよりよくするために行動しようとする児童生徒が多くいます。今後も地域との交流、連携を図り、地域への愛着と貢献意識を育てていくことが大切です。

4. 質問紙調査結果④（家庭生活、英語）

（1）家庭生活

小学校で全国平均を若干下回っていますが、90%以上の児童生徒が朝食を摂っています。

全国平均よりは下回っていますが、平日に2時間以上SNS、動画を見ている児童生徒50%以上います。

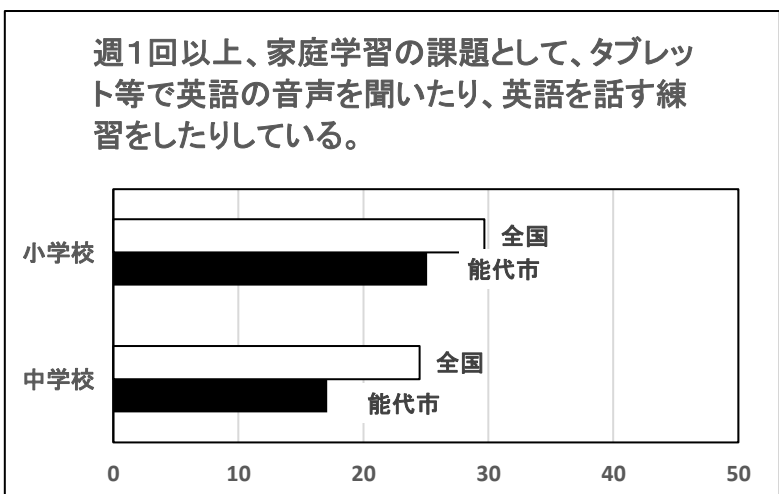
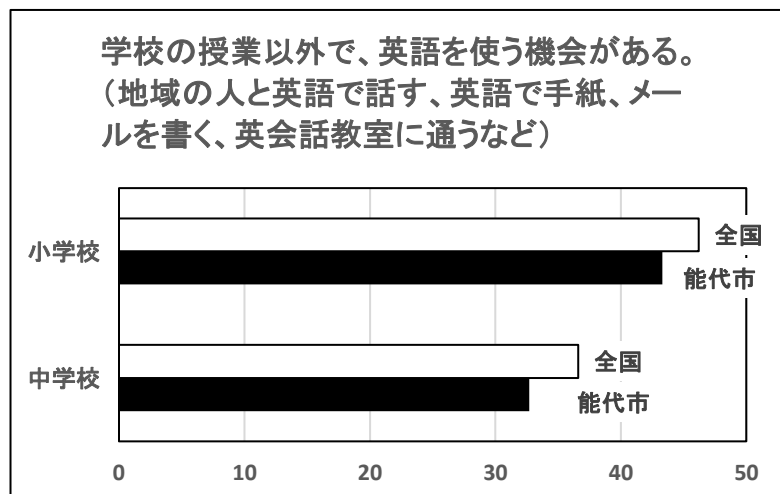


「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合 (%)

朝食を毎日食べることやスマートフォン等の使用時間について、望ましい生活習慣の大切さを啓発するとともに、児童生徒が自ら生活を振り返り、改善しようとする意識を高めていくことが大切です。

（2）英語

- ・授業以外で英語を使う機会が全国平均よりも下回っています。
- ・家庭学習の課題として、英語に触れる機会が全国平均よりも下回っています。



「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合 (%)

ALTとの交流、課題の工夫、地域人材の活用等で、授業以外でも英語に触れる機会を意図的に設けることが大切です。